

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	04 11 06	中期総合計画主要施策番号	3-13	担当課	部・課	健康福祉部 食品・生活衛生課	
事業名	食肉衛生検査所運営事業				内 線	2655	
					E-mail	shokusei@pref.nagano.lg.jp	
実施期間	S25 ~	根拠法令等	と畜場法 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律				
実施方法	県が直接実施					国庫・ 県単	国庫補助事業・ 県単独事業

事業の概要等	目的 (必要性)	安全な食肉を供給するため、食肉衛生検査所においてと畜検査をはじめとする食肉衛生に関する事業を実施する。
	対 象	食肉消費者、生産者
	目指すべき姿	食肉衛生検査所において、と畜検査及び食鳥検査をはじめとする食肉衛生に関する事業を実施し、安全な食肉を供給することを目指す。
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>県下4か所の食肉衛生検査所において、と畜検査を実施する。</li> <li>全ての牛を対象に牛海綿状脳症(BSE)検査、全てのめん山羊を対象に伝達性海綿状脳症(TSE)検査を実施する。</li> <li>獣畜の残留動物用医薬品のモニタリング検査を実施する。</li> <li>腸管出血性大腸菌を含む、食肉等細菌検査を実施する。</li> </ul>

事業コスト	区 分		単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)		千円	87,792	85,870	89,529	・賃金(と畜検査補助員):28,722千円 ・需用費(医療材料費):28,165千円 ・使用賃借料(と畜検査疾病データ管理システム):5,601千円
	決 算 額 (B)		千円	82,461	81,581		
	B(H24はA)のうち一般財源		千円	28,068	27,362	34,400	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	32.00	26.00	26.00	
		概算人件費 (C)	千円	266,144	214,708	214,708	
概算事業費 (B(H24はA)+C)			千円	348,605	296,289	304,237	
事業実績	成果指標・活動指標内容		単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	と畜検査頭数(活)		頭	181,296	173,302	180,000	・県内で処理された食肉に対する県民の安全・安心が担保された。 ・残留医薬品モニタリング数 (牛 111検体、豚 1,015検体)  (効率指標 算出式) 食鳥検査人件費を除く概算事業費/と畜検査、TSE検査数
	食鳥検査羽数(活)		頭	1,555,867			
	TSE検査頭数(活)		頭	11,052	10,699	11,500	
	<効率指標(単位当たりコスト等)> と畜検査、TSE検査		円/頭	1,559	1,880	1,847	

事業の成果	事業の目標(H23)	事業成果・評価	評価区分
	県内のと畜場、認定小規模食鳥処理場で処理された獣畜の疾病の排除と食肉の安全性の確保を図る。 ・牛、めん山羊、山羊のBSE及びTSEの検査を行い、感染獣畜の排除を図る。 ・残留動物用医薬品のモニタリング件数(牛60検体、800検体)	・県内で処理された全ての獣畜の疾病の排除が確保された。 ・県内で処理された全ての牛のBSE検査、すべてのめん羊・山羊を対象としたTSE検査を実施し、全て陰性であった。 ・獣畜の残留動物性医薬品のモニタリング検査件数は目標数を達成し、基準値を超過するような違反はなかった。	<b>b</b> 期待どおり

事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明				
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・検査を遂行することで、生産者・消費者双方の利益になる。 ・TSE検査は、1回に90頭分を検査でき効率的である。 ・と畜検査は、と畜場法第19条に基づき県が実施しなければならない。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析 (今後の課題、取組方針等)	県内で処理される獣畜の検査を行うことにより、食肉の安全性を確保することが必要であり、引き続き確実に検査を実施する。
	特記事項	